

飯能市緊急財政対策の取組に関する説明会

日時 令和 8 年 1 月 18 日（日） 午前 9 時 30 分から午後 0 時 15 分頃まで

会場 本庁舎別館会議室 1、2、3

意見、回答

No. 1

・ 財政調整基金の残高の推移が非常にわかりづかった。7 年度当初 4 億円だったのが、7 年度末には 14 億 6 千万円に回復しているが、もし回復するのであれば事務事業の見直しが 3 0 0 件を超えているが、これはもっと減らすことができるのではないかと思うがいかがか。4 億円だったものが急に 14 億 6 千万に回復しなくても、次年度に送っていけばいいかと思う。その点を踏まえて、もう一度イベント等の見直しを行ってほしい。特に飯能まつりは半減されているが、例えばツーデーマーチや奥むさし駅伝、元気市、このような飯能市外の参加者が見込まれる。イベントの休止は集客面について非常に致命的なダメージがあると思う。継続することが大事だと思うがこのあたりの見直しをもう一度行っていただけないか。その点を含めて金額の提示をお願いしたいと思う。特に事業見直しで確保できた一般財源の金額、それから各事業のトップ 5 とされる金額の大きい事業は何か教えていただきたい。

→ まず財政調整基金の残高の動きですが、お質しのとおり 4 億円ということでしたが、9 月の議会の際に決算剰余金が発生いたしました。それによって、当初組んでいた、8.5 億円の繰り入れについては 0 にするほか、5 千万円積み増しの方に回すことができました。この時の財源は指定管理者からの返還金であったり、消防組合の方から負担金の返還金が決算を通じて出てきたが、本来であれば、消防であったり、それぞれの基金に積み立てをしなければならないところを、財政調整基金の方に特例的に積み立てをして、そのような対応ができたところである。また、12 月補正の際には、扶助費の方で大幅な伸びを見せたので、3.5 億円逆にまた基金から繰り入れなければならないという状況に至ったところである。令和 8 年 3 月、これはこれから議会に提案する予定だが、26 のスライドにあるように、※1 のところで、3 月補正後の残高増の主な要因見込みのところでございます。今回、普通交付税、これもまた国からの歳入であるが、交付税で追加交付の通知が去年 12 月にあった。こちらの方で 5 億円措置されたが、その中身が職員の給与改定であったり、緊急経済対策に係るもの、そして臨時財政対策債償還基金費ということで、約 5 億円弱が特例的に措置されたものである。これが 8 年度以降も見込めるかという見込めない経費となっている。今回、これから市議会に承認をいただくのが前提だが、特例的な財源を何としても財政調整基金の方に積ませていただきたいということが一つ、この特例的に措置された財源のほか、それとも一つ、これは市議会からもご意見をいただいていたが、既存の基金で今後使う当てのないものは、整理をした方がいいとの意見をいただいている。飯能市土地開発基金は現在 5 億円で運用している。これが、土地の先行取得が必要な時にこの基金から土地を買うことができる基金だが、現在、土地として 3 億 6 千万円、現金として 1 億 4 千万円、合せて、5 億円で運用しております。今回 3 月議会ではこの先行取得の必要性や社会情勢の変化の観点から、1 億円については、基金の限度額を減らさせていただきまして、基金積立をさせていただきたいと考えております。その財源としてこの 1 億円を充てる。そして、最後に全庁

的に7年度入札などを行った際の執行残が出る。これが出れば前年度繰越金の方に決算剰余金の方に乗せることができる。これを可能な限り言葉は悪いがき集めて、あと、歳入。例えば、グリーンセンターの売電収入の運用努力によって増えてる部分もあるので、それらを3月補正に、入りの増、出の減を整理させていただいて、それらを積み重ねまして、今回、財政調整基金の残高確保につなげたいという考えでいる。これらについては、こういった外的要因があるといったことが大前提であり、それと8年度予算の収支均衡が今図れている状況なのは、市民の皆様の痛みを伴う見直しの上である。また、お質しのイベント、多くの方に楽しみにしていただいているイベントを休止したことにより、かろうじて収支均衡が図れている状況である。まず、この8年度につきましては、財政調整基金に頼らない形で予算を編成すること、これを実現し、8年度以降、財源確保に全力で取り組む中で次の9年度には今回休止した事業の復活に向けて全力で市としても取り組んでいきたいと考えている。ご理解いただければと思う。

→ いま答えたとおりであって、まだ見直せるのではないかとご指摘もあろうかと思うが、今までの調整で、第3弾、第4弾と出されたところであるので、ここは何としてもご理解いただくほかないと考えている。先ほど部長の方からも説明があったがこの経費を、市民の皆さんの生命財産を守ることを優先して、法令等で定めている負担割合、負担率についてはここで変えることはできませんので、それを最優先に経費を調整したいというところであるので、何としてもご理解をしていただく以外ないというふうに思っている。

→ 事務事業見直しによる効果額の大きなものだが、全体の中で主に「予算要求額」から「予算査定額、第3弾の見直し」に至るところでは、先ほど申し上げたとおり、340億の予算要求額に対して査定額322億円ということで18億円事業費ベースでは削減させていただいた。一方で、私共が一番注視しているところが歳出充当一般財源といったところである。一般財源のベースでは、ご覧いただいているとおり、第3弾までで11億円の金額の縮小となっている。個別の事務事業の削減効果は、現在最終的な予算調整を行っているところで、2月に令和8年度の予算案を提出するときには、それぞれの事業の見直し効果、そういったものも集計、一覧にして皆さんにも公表させていただきたいと考えているところである。

No. 2

・ 今回の説明は50分の割には非常に予想以上にわかりやすかった。その点はすごく今日来て良かったなというふうに思う。それはよく言えばの話であって、率直に言うと、最もらしい数字的には最もらしい報告だなというふうに思っている。物足りない点を一つ、要望を伝えると、いただいた資料の2枚目の裏側の飯能市の固有の要因があるのではないかと、どうして飯能市だけが深刻な事態に陥ったのか、飯能市固有の要因があるのではないかとということで、その二つを挙げていると思う。この二つね、借金の返済がある、それから古い施設の修理、改善に費用がかかる。これ当たり前の話である。元々わかりきった話であり、特にこの二つとも、予想して100%から95%ぐらいは誰でも把握できる内容である。そういう意味では、今回の方の説明のレポートの内容は、率直に言って高校生の自治体研究クラブの報告レベルかなと思う。肝心の足りない部分は終わりから2枚目の部分で、これからの歳入を増やす、支出を抑えるってありましたのでこれも当たり前で、今日欲しかったのは、歳入を増やすためにどうしているのか。それが提示されていない。増やすためにどうしているのかという、そのリストがない。これがない限りは、見直し検討でも何でもない。そういう意味で歳入を増やすために、税金を上げるじゃなくて、税金払ってない人

たちからどうやって取り立てるかで、必要なくなったら売るものは高く売る、貸せるものは高く貸す、そういうものがどれだけあるのかというのは全部リストアップした上で、やってくださいと市民に提示してください。そこまでが市の職員の人たちがやるべきことなんじゃないかなと思う。今後どんなに意見交換しても、全てのことには賛否両論である。どんなに話し合っても結論は出ない。最終的には民主主義なんですから、議会で決める以外ない。今までのように一括して賛成しますか反対しますかじゃなくて、この見直し案件一つ一つ議会で賛否をとって、どの議員が賛成して、どの議員が反対したかというのを全部明らかにしていただければ、議員もうかつにいい顔ばかりしないで、本音の対応を示してくれると思うので、それができれば今回の見直しのプランの一斉発表も市民がこんだけの関心を持ったわけですから、すごい効果だと思う。新井さんは、多分後々まで名前が残るね、市長だと思う。私も市川さんの時代からずっと見ているが、全ての市長は、市川さんからずっと大久保さんまで議員ですよ、今回の新井さんのように市の職員上がりで市長になったってのはないと思う。こういうのはやっぱり市長、長く市の職員を務めた人が市長になったから、できることじゃないかなという意味で、今回のこの見直しリストで飯能が大きく変わるんじゃないかということで、私は76ですが、少なくともあと10年見続けるためには楽しみが増えたなというふうに思う。頑張ってください。

→ 歳入確保というところでは、市長、財務部長の説明のとおり、資料としてはございませんが、今後可能な限り、多くの企業立地をしていただくために、企業誘致を積極的に推進していくということは、大きな税収効果にあがるので、積極的に進めてまいりたいというふうに考えている。また、ふるさと納税や、様々な公共施設を活用した財源の確保も、今後取り組んでいきたいと思っている。公債費の話だが、スライドの6ページ、こちらの表を見てください。我々飯能市の執行部として反省すべきところはこういった形で、ローンを組めたときには、最終的にいつまで、どのぐらいの額が返済しなければいけないというのは、本当にお金を借り入れたときに考えなければいけないことで、そういったことを見据えて、財政調整基金、あるいは減債基金などに積み増しをしてこなかったというところは大きな反省になっている。そういったことが今日のこういう状況になってるということで、非常に反省すべきところは本当に反省をして、可能な限り、今後はこういった事態にならないように積み増し、積み増しといったことを積極的にしていくということが財務部長からあったように、これからそういったことを積極的に進めていく。

No. 3

・ 今日説明会ではなくて、今まで聞いていると財務部長の説得になっている。これは後から言いますけど、ちょっと私の感想とお願いをしつつ、皆さんに聞いていただければと思う。10%はなぜか。これをずっとAIと喧嘩しながら聞いていた。10%というのが何もなし。法令にもないし、ガイドラインにも何もなし。なんでもかなと思う。今日、資料もらったら、結局ダイアプランに比べて、他市に比べてかっこ悪いからと私は思った。この10%っていうのは、皆さん大変だ大変だということで、議員にも聞いたが、誰も市議会で追求しなかったという。まずはそこからです。これは感想だが、ほとんどの方の皆さんが、いろんな図書館とか、自分の関係するところが削減されて、来ている方がほとんどだと思う。この財務の数字、見てわかるわけじゃないんですよ。財務部長がさっき説明してくれましたが、結果だけである。時間の無駄だと思う。お願いなんですけど、金額効果が一切わかりません。これをやめました、いくら経費が削減されるんですか。買いました、いくら払いましたか一切通じない。と思ったら、昨日毎日新聞のネットで見えたもので、こども図書館が年間計画で2,500

万かかりますと。出てるじゃないですか。計算しているはずですよ。私も会社員でしたけども予算の要求して、結果を見てというのは必ず数字で見る。これだけのことをやっているのに、数字が出てきているのに数字が出てきたのは 2,400 万円だけ。こども図書館だけ。絶対納得できない。これはもう計算してるはずだから、全部出してください。あともう一つ、そんなことを言っていたら、今日もらった資料が作成中、最後のページにこれまでの行財政計画を運営した場合と、行革に取り組んだ場合の差ですよ、2 億 3000 万くらい。ざっくり言って、皆さんにあれだけ批判を受けたのに 2 億 3000 万しか減ってないんじゃないか。間違っていますか。数字じゃないと何とも言えないんですけど。最後にこれだけ、2 年間で何とか 14 億まで戻るといっておられました。そうなのと思ってよくよく見ていたら、財務部長が先ほど言ってましたけど 11 億円くらい戻すんですかね。9 億 2000 万とか臨時交付金とか地方交付税の増、これ 9 億 2000 万あるんですよ。10 億円あるんですよ。ということはラッキーなことに税金が増えたのだから。それで我々市民サービスが減って 2 億とか、あれだけのことをやって戻せないんですよ。ほしい数字がないとこれしか言えないんですけどなんだかよくわからない。昨日出た方が市の提案のプロセスが見えない。いきなり出てきてどうになりました、今日は財務部長が一生懸命説明してお願いします。資料これだけです。おれははっきり言ってああそうですかで通せないですね。先ほどの方が言ったことと被っちゃうんですけど、ずっと見ているとずっと借金経営だった。新井さんがなる前から借金経営だった。それはそうですよね数字を見ていると。繰越繰越で何とかしてきましたとのいいかたされてますけど、新井さんが市長になった時にちゃんと財政をしっかりさせますといったはずですよ。部長さんとかがまだ課長さんとかの時だと思えますけど、何もしなかったからこんなになっちゃって、4 億に下がってしまって、こういう結果ですよ。じゃあしょうがない、市民の皆さんも協力しましょうというしかないよこれ。そしたら何をやめて何を残してもらうか。公民館の使用を一度はやめてもいいというかもしれない。そういう提案をしてください。これだけかかるんです。これだけ下げたいんです。先ほどの方がおっしゃっていました、奥むさし駅伝やめます。ツーデーマーチやめます。人が来ない。やめること考えて、いや、奥むさし駅伝やったらいくらかかるんですか。しょうがないそれだけかかるならやめるっていうかもしれないじゃないでしょうか。数字ベースの提案がなければ、皆さん OK しません。ですので早急に出してください。リストで全部。初期から 1 次、2 次、3 次、最終こうやって見直してこれが残っている。

このくらいの削減ができる。企画総務部長お黙りになっていますけどおたくもそうだと思う。今日、市議会議員さんいると思うんですけど、見えないんでわからないですが、市議会議員さんも提案した方はいらっしゃいますけど、まだ提案する時期じゃないでしょうこれ。こうしましょう、これを残しましょう、こういう施策をしましょう。そんなレベルの問題じゃない。ここまで低いんだしたら全部出してください数字で。我々に痛みを伴えるというのであれば、どういうふうになつた。全くわかりません。新井さんに一票入れて心配だと思う。

→ 全てお答えできるかあれなんですけれども、まず、財政調整基金の標準財政規模の 1 割というお話し、ご指摘のとおり、法令等で定まったものではございません。飯能市では、代々財政調整基金残高ベースで議会等で問われたときに、かねてより標準財政規模の 1 割程度を目標にしたいというのはですね、代々これを申し上げていた。その根拠としては、平成 29 年度に総務省の自治財政局が全国の自治体を対象に調査を行っており、その時にどのくらいの規模が望ましいかというような問いに対して、標準財政規模の一定割合と回答した団体の中で、その具体的な水準として、市町村では、5%から 10%以下が 39%、10%から 20%以下が 37.8%と、ここの部分に集中する形であった。それを根拠として、市も 1

割程度が望ましいんじゃないかということで、これまで答弁をさせていただいている。今回の提示もそれに基づくものである。法令等の根拠がないのはお質しのとおりである。

・ 法令根拠じゃないことぐらい知っている。

→ 財政効果については、一つ一つの事業については、今、積み上げをしていて、最終的な結果については、作成して公表させていただく予定でいる。その準備を進めている。それと、全体的な効果、今後の見通しも含めて、お話の方をさせていただくと、「予算要求額、10月28日時点」という中段のところが、このときに歳出総額が340億円ということで、一般財源、私どもが一番重視している歳出充当一般財源が237億という状況だった。これがこのときには22億円の乖離があったわけだが、今回の皆様に痛みを伴う見直しによって、この22億円が解消できたと考えている。ご指摘のあったこちらのスライドのこれまでの行財政運営を踏襲した場合、令和8年度予算要求額を見ていただきますと、22億円になっていると思う。これが何ら対策を講じなかった場合、22億円の乖離が発生していたところを、皆様の痛みを伴う見直しをさせていただいた上で、下段の方、令和8年度の予算編成時点では、収支0、過不足なく収支均衡を図れたということである。ご指摘あった国の要件だが、この8年度の見直しを行ったにも関わらず、やはり扶助費の伸びが大きいところを勘案すると、このままここで歩みを止めてしまうと、さらにこれから収支乖離が増えてしまうという状況があり、そこを行政改革を行うことで、乖離を埋めていこうとしているところです。目標も、今、行政改革大綱をつくる中で、検討しているのでそれも公表させていただきたいと考えている。

No. 4

・ 財務部長が扶助費が非常に、市政を圧迫しているということだが、市民一人当たりの扶助費は他市と比較して高くない。これは市が作成した資料で明確になっている。例えば飯能市が1人当たり9万8000円、川越市が11万5200円、所沢市が10万2,500円、東松山市が11万7,900円、狭山市が10万2000円、入間市が9万5,900円、日高市が10万3,800円、こういう数字で見ると、いわゆる市の財政の悪化原因が、扶助費であるという批判論は、まず基本的に正しくないと思う。自らの財政運営が正しかったかどうかということの、やっぱり総括が必要だと思う。他人に責任を転嫁しないで先ほど副市長は、テーマパークの財政運営が、本当にどうなんだろう、116億円の特例債がきたっていうんで、金を使いたい放題使ったんじゃないか。これが116億円というのは、30億円返さないといけないのだから、当然湯水のように使ってはいけない。後で返さなきゃいけない。返すこと前提にした財政運営が行われて来たのかどうか、先ほど副市長は反省をしていたが、そういう総括が必要だと思う。飯能市に住んで38年だが、財政危機なんていうのをほとんどの人が初めて聞いたと思う。昨年2月に出した文章では、20億円の財政調整基金を2年間で貯める。そのために持続的な緊急財政対策を行う。しかしそのあとの4月の市議選、それから7月の市長選があったが、そこにおられる新井さん含めて4人の市長さんが、財政危機は大変だということを訴えましたか。そんなことわかることは全然なかった。今ここに市長さんの公約持ってきてますけど、財政危機は大変で、こんなことになるなんて、誰も訴えてないで。なぜにわかには財政危機が降ってわいたんですか。少なくとも当然市長選挙が、市長選に出る方は、自らも飯能市の財政

状況はわかってるはずである。当然、財政のプロがいるわけですから、飯能市の財政がどう状況かっていうのは、ある日突然わかるものじゃない。当然見通せるものである。それをどの候補者も言わない。だから私はびっくりした。11月4日に来てこんな事態なのか。そういう点では、もう一つは、そこにいらっしゃる財務部長はテレビに出ますよね。飯能が赤字だということで財務部長さんが映っていた。赤字だっていう話は、私は東京都の職員で行財政運営に関わってきたが、飯能市の赤字っていうのは、普通は私達の感覚では赤字っていうのは、収入と支出が合わなくて支払いができなくなって、債務不履行者になる場合を赤字という。先ほど財務部長は財政が破綻するような状況ではありません。なんだか全国で有名になりましたよね、飯能市ともうひとつの市。全国で2つの赤字自治体として放映されたわけですから。私達、市民にとっては寝耳に水。そういう点ではある意味ではショッキングだった。その後いろんな数字が出されてきましたけど、一つの直接的な原因は、予想は財政調整基金が枯渇したんで、2年間で20億円貯めるというこれが最大の、去年の2月に出された目的ですね。これ見ると、大体飯能市で20億円をたまったためしはない。財政調整基金、少ないときには10億円下回って、過去財政調整基金が20億円になったことないんですよ。それを突然2年間で財政調整基金を20億円に貯めるなんてのはびっくりした。普通これは財政の専門家としてはあり得ないことである。飯能市は決して豊かじゃなくて、ある意味では貧しい方であり、貧しい方が突然金持ちになってる状況なんていうのは、そんな話はない。だからこれから財政運営を計画的にして、少しずつ貯金をして運用していくという、そういう方向を示すべきだったんじゃないか。そういう意味ではこの計画ずっと数字を見せてもらいました。予算書もを見せてもらいます。現実、去年の9月決算では、実質17億9000万円の黒字である。これを一部、財政調整基金に積み立てる、だから、今後、財政予測をして、それこそ持続可能な、飯能市の財政運営をしていこうというけれど、計画的な財政運営が必要だと思う。そういう点で、今までの事務事業がどうだ、どうだったか、それぞれの今まで市の単独事業ですよ。結論としてみなしの単独事業ですから、その単独事業がどれだけかかって、どういう効果があって、これを削るとか削らないとかっていう条件が本来は出されるべきである。今は、どれだけかかって、どうだとかっていう効果はなくて職員の皆さん方が、各課にね、必ず出させて言われて名前を挙げたわけで、その事業が、その地域住民にとってどんな役割を果たしていたとか、どれだけ役立ったのか役立ってないのか、そういう検証が全くなされない中で、まな板に乗って、ある日突然、これは削りますよって言ってきたわけである。これは住民にとってこんなやり方は正しくない。何とか来年度の予算については、目途がついたというんだったら、もう一度きちっとその事業がどんな地域住民にとって役割を果たしてきたのか、果たしてこなかったのか。どういう施策が役に立ったのか、立たなかったのか。それをきちんと検証して、その関係者、地域住民と相談してやるっていうのがまず基本である。まず削減ありきでバサーとやって皆さん、これでご納得くださいっていうのは、新井市長、私は譲ることはありません。アンケート調査の概要は行政センターだよりでお配りした。今後は結果を踏まえ自治会長の皆様等と方向性について話し合う機会を設け、協議を進めていきたい。これでやりますっていう説明をしたが、そういう手法は最も非民主的である、市民が主人公というならば、そのそれぞれの地域でその事務事業がどうだったのか検証して、そしてその上で、やっぱり今財政状況はこれだけだから、これはやめます。これはできません。そういうことを相談するのは、本当の市の幹部の皆さん方の役目じゃないですか。ぜひそういう点で、一旦白紙に戻ってきちんと事務事業の検証もして、そしてどうだろうかという問題提起をするべきと思う。

→ ご指摘いただいた扶助費の状況については、上の段方が飯能市の決算額の推移について、右肩上がりで増えている状況である。しかし、近隣 11 市と比較すると、1 人当たりの額が決して高い水準ではない。飯能市は、逆にそこを危機として捉えている。これまで近隣自治体と比較して金額が決して多くなかった費用、それが今、右肩上がりで増えている状況である。飯能市も別の視点から分析したが、民生費の扶助費の増大の関係を示したものをご覧いただけますとおり、これも全国共通の課題であるが、民生費の金額も右肩上がりに 24 年間で 90 億増えている。当然、国から 2 分の 1、県から 4 分の 1、市が 4 分の 1 負担するので、財源は手当されるが、それでも民生費に使われた一般財源を見ていただくと、やはりこの 24 年間で莫大な金額が増えている状況である。そのうち、給付関係に充てられた扶助費の方が、やはり同じような流れとなっている。近隣自治体から差がある扶助費が、サービスの提供体制等が整ってきた中で、追いつくような状況で非常に増えている。それ以外にも飯能市は、今まで公債費とか普通建設事業は近隣自治体と比較しても高い水準だったが、そこに扶助費が近隣と軒並み肩を並べるようになると、さらに財政圧迫の要因になるんじゃないかというのが、一つ懸念をしているところである。財政調整基金の過去の残高比較である。飯能市の過去を振り返ってみると、平成 19 年と 20 年は、青い棒グラフのとおり、高い数字になってるときもあるが、この 2 か年においては、20 億円の金額を超える状態となっている。当時の標準財政規模は、150 億とか 160 億であったと思うので、その当時の財政規模に対する割合はですね、1 割をはるかに超えるような水準で確保していた時期もあった。こういった状況もあり、何か一つの目安として、財調だけではなく、減債を合わせて一定程度確保したいというような状況である。これについては、市議会議員の皆様から、短期で目標達成というのは無理があるんじゃないかというご指摘もいただいている。今、緊急財政対策プラン 2 年間の内容を、8 年度から 12 年度までの行政改革大綱に、目標を引き継ぐ手続をとっており、5 年間の中で、目標実現に向けて取組を進めていく。とは言え後回しではなく、なるべく早くに実現して、休止となった事業を早期に再開できるようにしっかりと取組を進めていきたいと考えている。いずれにしても、過去の改めるべきところがあるため、このようなことが二度と繰り返されることのないように、市といたしましても、しっかりと行政運営をしていく。

No. 5

・ 休止や縮小した事業がそのまま廃止になってしまうのではないかと危惧している。市長任期中にこの休止、縮小事業を復活させられるのか教えていただきたい。

→ 休止、廃止、縮小といったところだが、当面来年度 8 年度の予算については我慢していただき、それを景気や財政計画が良好になったときには当然復活するようなことは取り組みたいと思う。

事業によっては休止、廃止してしまうと復活がなかなか難しいということはあるかもしれませんが、そのあたりについては、私は最大限努力していく。

No. 6

・ 配布された資料の一番初めのスライドについてお伺いしたい。グラフがあるが、上の二つの折れ線は義務的経費が右肩上がりで上がっているのが、それに対してバツ印でつないである市税は横ばい状態の収入であるということで、義務的経費で上がっている。右肩上がりで上がっている義務的経費をみると①②

③の同じグラフに書き込んである、下の方の折れ線の合計が一番上の正方形で間違えないと思われる。下の①②③のそれぞれのグラフについて、公債費の問題がずっと言われているが、確かに上がっていますが、でもそれほど急激な上がりではないなと思う。①の人件費についてはむしろ上がってない。職員の給料、他の会社の給料も同じですけども、ここ30年据え置かれちゃってる。ところが5年から6年だけ急に上がっている。これどうしてなのでしょう。それから②の扶助費は、いきなり上がっているところがいくつかある。例えば平成21年から22年、令和2年から3年、それから直近の5年から6年、なんでこんなに急激に上がることが起こったのか、何か事件でもあったのかお伺いしたい。また扶助費は少子高齢化の進行によって増えることだが、子供が減れば、そこにかかる費用は少なくなるんではと思う。内訳がどういふふうになっているのか現状をお伺いしたい。

→ 義務的経費の中の内訳といたしまして、人件費、扶助費、公債費と、このような状況である。人件費が、5年度から6年度にかけて急激に伸びている状況ですが、会計年度任用職員の人件費については、正規職員と同様に、業務に当たっていただいております、同一労働・同一賃金の処遇改善を進めるのが、全国一律の取組となっている。例えば、勤務手当の支給であったり、雇用形態などにつきましても、正規職員に準ずるような形で処遇改善を図るということで、5年から6年にかけても、それが出ていると思う。6年から7年にかけても、最低賃金が上がっているの、手当の改正が行われており、そういったことも含めてですね、決して職員数が急激に採用を増やしたとかそういうことではなく、会計年度任用職員の処遇改善が大きな要因と考えていただければと思う。また扶助費の中身のお質しについては、全体的に、社会保障関係経費ということで高齢者、障害者、子育て、生活保護、そういった福祉経費がメインとなっている。お質しのとおり、今後の少子化によって、そういう傾向が当分見込めるが、高齢者数のピークがですね、2040年と言われており、それに向けて、全体の社会保障費が増える傾向にあるかと思う。一つ決算の数字で申し上げますと、民生費全体の決算額が、5年度が約127億円の決算であったものが、6年度、民生費全体では141億円となっており、約14億円増加となっている。その内訳として大きなものが児童福祉費。これは、特に保育所入所等に係るお金になるが6年度は約56億円。令和5年度の約49億円に対して、約7億円の増となっている。その他、障害者福祉費は、令和6年度は約20億円であり、令和5年度が約18億円でしたので1億円以上増えているという状況である。

No. 7

・ 財政のことを全く詳しくないので、今日聞いてどれだけ理解できたかがわからないが、やはりこのままいろんな施設が縮小されてはいけないと思うので、今日ここに来まして、一言言って帰ろうと思う。今日の説明の文書の中で番号が23のところは令和8年度予算編成の経緯となっていて、真ん中、中ほどの実施計画要求欄のところは収支乖離が21億8000万あったものが、3回目の見直しでは歳出が239億から219億になっていて、収支乖離がプラスマイナスゼロとなっており、20億も減った中に休廃止計画のものが含まれてますかというところを伺う。次のページ26の財政調整基金残高の推移説明の、令和8年度の予算を最終的なところで、今現在見ると合計で18.7億円。又は14.6億円。どちらなのかかわからなくて合計で18.7億円でいいですか。だとしたら、目標とされていた20億にほぼ近くて、大体先ほど課長さんがお話されたように、20億にいったことは一度もなく、これをいただいた表の中でも最高額が18億

1000万円の平成21年最高で18億しかない財政調整基金を、今もう本当にピンチだっていうときに、2年間で20億にしようという目標自体が何か土台がおかしいのかなと思う。それと23ページのプラスマイナス0になった中、この予算編成歳入歳出の額の中には、この財政調整基金というのは含まれていないんでしょうか。別立てなんでしょかっていう質問が二つ目です。皆様方もおっしゃっていたように、休廃止になっているなら、この事業ではいくら使ってます、そして、公民館を有料にすることによって幾ら入ります、具体的にどこの団体で何団体が登録して、月に幾ら払って年間幾らです。それを有料にする。払ったとしたらいくらになるのか。先ほど毎日新聞で2400万っていうのが出たっていうのは、それで初めて知るなんてちょっとおかしいことになってる。一つ一つ、これだけの削減にするんだったら、何度も言われているように、具体的に一つ一ついくらかかり、縮小することによっていくら削減できる。それで何億円のプラスになるからっていうものがないと市民は全く納得できないと思う。それを示してからにしてください。結論を申し上げますと、私は、国の財政もおかしいと思う。防衛費に9兆円もかけて、皆さんご存知かとも知らないですが、オスプレイは1機に100億する。落ちるかもしれない、日本しか買わないような、あのオスプレイが1機100億をして、安倍首相のときに14億だかで、そういうことを言い出したらきりがありませんが、国にこんな物価高騰で、地方の財政は大変だ。もっとたくさんやってくださいっていう、そういう市民社会の暮らしの中に使ってくださいっていうことを国に要求されたことがありますか。もしなかったら、市民に言う前に国にそういう要求をしてほしいと思う。結論として私の要望は、2回目の説明会でたくさんの方がみえて、これから各公民館になるわけだが、これだけ多くの方が疑問に思っていることを説明しました。何人かから貴重な意見をいただきましてありがとうございます。努力しますってのはいけないと思う。1年間、これと去年と同じように努力して、どこも休廃止にしないで、1年後に私達もずっとうちと一緒に見守って、どこを削つたらいいのかっていうことを考えていく。ツーデーマーチ、奥むさし駅伝、飯能まつりも、何百万だったと思います。どっかが600万とか400万とか、そんな市として大変なものではないと思う。ツーデーマーチにはたった1回しか参加してませんけれども、一緒に歩いている人たちの話を聞いてみると、飯能市の方じゃない方が圧倒的に多い。近隣の場所から遠いところからみえてる。この中にはツーデーマーチだけはかかさずにきてる方もいて、駅伝も参加団体見たら本当にたくさんの中高大学一般、いろんなところから来てまして、やっぱりそれが飯能の魅力になってると思う。そういうところを削るっていうのは本末転倒だと思う。1年間みんなで考えていけばいいんじゃないかと思う。

→ ツーデーマーチや、奥むさし駅伝、数字的なものは財務部長から説明しますが、先ほど申し上げましたように、市民の生命財産を守る予算、それから法的に定められている予算についても採用、こういったことをやっていくとですね、やはり市が独自で行っている事務事業どうしてもここに標準が来る、焦点が来るというか、他にもかなりそういった事業はあるが、一番目立つのが駅伝とツーデーマーチ。そういったことについては8年度予算についてはご理解を何とかお願いしたい。その後については景気が好転することや、あるいは財政状況が良好になる、そういった時に復活できるといったところでご理解いただきたい。

→ 私の方から「予算要求額、10月28日時点」の金額との対比となりますが、この時点で歳入歳出差引、財源不足額が22億円の乖離がある。それが第4弾見直しでは収支0という状況である。これは、先ほどのイベントの休止をはじめ、様々な補助金の見直し、施設の休館等々、市民の皆様の痛みを伴うものの上で成り立ったということである。財政調整基金の繰入れは、これまでの行財政運営の反省も

踏まえて、8年度においては、基金に頼らない予算編成を目指してきた。基金には手を入れずにいる状況である。その結果として、この財政調整基金だけを見ると14.6億円、先ほど18億とおっしゃっていたのが、国からの特例的な財政支援といったところがあるが、この14.6億円を、なんとか確保できる見通しとなった。また同じことの繰り返しとならぬよう、ここで手を入れてしまうと、なし崩しになってしまうので、8年度においては、基金に頼らない身の丈に合った予算編成とさせていただきたい。3月補正も議会でご承認いただき、14億確保できたら、当初予算には繰入金計上額を0として、本年4月以降は安定的な行財政運営を進めるために確保させていただきたいというのが考え方である。事務事業ごとの効果額につきましては、今、一覧を作成中ですので、作成次第、皆様方にもお示ししたいと思う。今、イベント関係の話だけさせていただくが、ツーデーマーチの関係で市から実行委員会に対する委託料は800万円、奥むさし駅伝競走大会については450万円、飯能まつり協賛会については令和7年度は600万円という金額を支出しています。特に新緑ツーデーマーチについては、議会でも多くの議員からご指摘いただいています。この直接経費の委託料のほかに、ここに従事する職員の人件費が、所管するスポーツ課の職員のみならず、全庁的な協力体制の下で行っているため、そうした人件費を加算すると莫大なお金がかかっているという状況である。様々な事務事業の見直しを行うことにより、※印の2番目のところに、総人件費の減ということで1.2億円を見込んでいます。これについては、事務事業を休止させていただく代わりに、新規採用職員の採用を抑制して、職員総数もここで圧縮して、人件費もトータルすると1億2000万ほど削減するという見直しを行っている。事業を行うことで、事業費自体は少額かもしれませんが、その裏にある人件費という見えないコストも大きなものであり、令和8年度については、そのような見直しもさせていただいたところである。

No.8

・ 今回のこういう取組は大変素晴らしいものである。そういう意味では感謝している。私が最後に言いたいのは、私の疑問は皆さんに言っていただきました、ただし全部答えてとは思えませんので、本内容は、行政情報として記録されるんだろうと思う。皆さんの疑問を、そういういった素晴らしい疑問に対して、どう答えて、どうするのかというのは、後日、いち国民、一市民として、行政情報開示請求で開示できるようにしていただきたい。それを見れば、こういう質問した、こういう回答になってるんだなというのが、新たな未来を切り開くんじゃないかと思う。

・ 情報開示じゃなくても出すべきだと思う。
・ そういう意見もあるんだろうと思いますが、これは私の意見でそれは行政の方で考えていただければいいと思う。私の意見として伝えました。

→ 参考にさせていただく。

No.9

・ 身を切る改革とか、聖域なき行革とかっていうので、以前に国政レベルでも聞いたことあるが、お互い様ということはあると思うが、私もシルバーですが、非常に扶助費というか、医療費とか、税金もたいして納めてないので、非常に肩身が狭い思いをして、飯能市民の生活をしている。シルバーの方にも、非常に耳障

りというか、お互いにいろいろ削るところは削ったり、そういうことは必要かと思うが、何かシルバーを厄介者にしているようなふうに思う。私のひがみ根性かもわかりませんが、非常に思う。地方の時代とかっていうことで戦後、そういうようなことでやってきたと思うが、実際に地方の時代におらず、国、県、市、右へならえのような状況になっていて、大合併というのがあまり使いたくはないんですけど、昭和とか平成の大合併とかっていうことで、何かいわゆる馬に人参ぶら下げてというようなことで、非常に何かやらされているというか、いろんなことをやりなさいというようなことで、やはり市はやっぱり地道にやっていかなきゃいけないと思う。箱物をどんどん作って、ノーとかそういうところも含めて、阿須山中にしても 17 ヘクタール、ずいぶん高額なお金で買ってる。私の感覚で言うと、1 ヘクタールは 100 万程度だった。山林が、中藤と阿須山中では、価値が違うといえばそれまでも感じませんが、名栗のところを何か基準にしているという。何かわけのわからないことをやって、年間 120 万ですから、市の財産をうまく有効に使うということはこれは当たり前なんですが、私から言わせていただければ、何か特定の民間企業に非常に裏があると、優遇していると思っている。そういうようなことも証拠あるのかって言えばそれまでですが、内部告発もでない。それだけがちりある意味でマイナスの意味で固まっているのかわかりませんが、そういうことを考えると、100 億とかそういう金を、泡銭というか、何か使い放題使ったあとは頼むよというか、そんな状況になっている。森林文化都市もそうだが、宣言すればいいということじゃなくて、もう何年も 100 年も 200 年も、ある意味では森林文化都市として、飯能市は恩恵にあずかってきたと、大体 3 代で木を切つてというのが、これは筋なんですよね。バトンを受け継ぐとか、そういうものを真剣にやらなかったら、地道にやらなかったら、もう借金を抱えるのは当たり前であるし、まさに私はもう破綻してると思っている。財政だけじゃなくて市政が破綻している。少数の意見を本当の意味で聞かないと、その少数の意見というのは、市民から吸い上げた議員さんたちがやってるにもかかわらず賛成多数で、はい。あまり本当に真剣に討論して、議会も動いてるとは私は思いません。まだリタイアをして 10 年ぐらいなのでそれまで議会傍聴はそれほどしてませんが、ここ 10 年ぐらいは飯能市だけでなく、越生、毛呂、日高等にも傍聴に行ってるが、飯能市のようにならないで欲しいというのが最後の議員さんたちの一般質問の、言葉なんです。傍聴してて、飯能市民として例えば毛呂山町の議会で、議員さんが飯能市のようにならないようにしてくださいねで一般質問終わってるんですね。それを聞いている私としては本当に飯能市民としては本当に、なんていうか、じくじたるものがあるわけなんですけど、それは感想かもわかりませんが、本当の意味で市政を大事にするっていうか、市当局もそうですし、議員さんたちにもお願いしたいと思う。しっかりやるとお前何やってんだって逆に、言われちゃうかもわかりませんが、そういう意味で、まず考えてなくちゃいけないのは、国とか県のことをすんなり素直に、それは本当に素直じゃなくて、国保なんかについても、一般会計から入れてほしいというのを入れてくれなかったり。

→ 時間がかなり超過しておりますので質問をまとめていただいてよろしいでしょうか。

・ 質問というのはありません。要望というか、森林文化都市として地道にやってほしいということと、市政運営とかそういうことについては、意見を市の市民の意見を対話ということをして市長さん言われてるわけなんですけど、今年度末にこういうものを開いて、一応市民の意見を聞いてからやっていきますというので、切られてしまったら、困るということ。本当に対話を大事にしてほしいということである。まともなすまません。昨日は失礼いたしました。

No.10

・ 飯能市の国際交流協会の事務を開設当初からやらせていただいております。事業見直し検討シートを見せていただいたが、国際交流協会で仕事をしている方からもうかがったが、4月から国際交流協会への助成金は0になるという話である。19日に決定したということで、皆さん来ていただけることになっているんですけど、今日知っていただけるとありがたいとお時間いただいた。飯能市の中で外国人の方、国際交流協会という国際交流をやっていると思っている方が多いと思うが、私は国際交流協会の仕事で最も大事なものは、飯能市に住んでいる外国人の方の生活が、地域の方となじんでやっていけるようになる。そのための支援が一番大事だと考えている。そのことが飯能市のより良い生活につながると思う。いま令和2年度の国勢調査では960人くらいが、現在は1,600人ぐらいの外国の方がいて、だいたい人口比で2%ちょっとである。この会場に本来であれば2人か3人の外国の方がいてもいいというような割合である。令和2年からの5年間で1.7倍になっている。住んでいる外国人の方の人数はこれからもどんどん増えていくと思うが、その時に外国人の方のアクセスしやすい窓口として国際交流協会が私は必要だと思う。いきなり4月から0で職員もない、事務局も今、市民活動センターにあるが、場所もないという状況になってしまったのでは、まずいんじゃないかなというふうに感じている。せめて1年間かけて国際交流協会が今後どのようにしていけばいいのか考える期間をいただけるとありがたい。

→ 国際交流協会の話だが、他にもそのような事務事業があり、経費につきましては委託金を払うとかそういうことを行うが、今の時点ですと、国際交流協会につきましては、補助金は8年度は無しということで取り扱っている。他の関係についても、そういうのはあるが、これについては、後ほど説明に上がりたいと思っている。

→ 補足で、これまでいろいろご説明をさせていただいたとおり、財政状況の中の内容から、本当に時間のない中、皆様方にご不便、ご負担、ご心配をおかけしているところである。まず一旦はこういった形で休止などをさせていただくが、今後財政状況を見ながら、速やかにそういったところの内容をまた再度精査をさせていただいたり、復活できるものは復活していく、そういった事務事業の見直しなども、当然必要だと思っている。そういった点も踏まえて、今後また取り組んでいきたいと思っている。

No.10

・ 提案だが、うちの方にもどこにも赤線がございまして、それを役所の人に言いましたら、今は落ちちゃってないよというようにいわれた。赤線は市で管理できないような状況であり、中藤の方や、前赤線だった土地、市の方で残ってると思うが、そういうものを売却していく。また、新道ができて、いままであった道路がいらなくなってきて、そういったものを売ってしまえばいいのではないか。将来使うかもしれないから取っておくという気持ちがあっても使えないと思う。昭和41年に赤線廃止があったが、そういった中で今ならば売っていける。そういうことをしていただけると幸いである。

→ 不要になった市有財産は、こういったものは今でも処分しているが、今後はさらに積極的に処分していきたい。歳入を確保していきたいということで取り組んでいきたいと思う。

→ 何人か手を上げている方がいらっしゃいますが、お時間の方が予定より30分程度経過しておりますが今手を上げられている方につきまして発言いただければと思います。

No.11

・ 説明会の開催については、市としても市民としてもメリットがあると思いますが、効率的に運営する方法を考えていただきたいと思う。市長のふれあいミーティングでは、質問があった方に何を質問するかという、A5 くらいの用紙に書いてもらい、後で回収したかと思うが、今回はそういったものが一枚も渡されていない。ということは、質問したものがこのままやむやみに無くなるのか。それをちゃんと回収して、検討して、今回回答した以外で、さらになにか検討したことを公表していただけるのか。そういうことが今さっぱりわからないということが疑問と要望である。もうひとつ、緊急という名前がついてますこの説明会。緊急であれば市民はいち早くこの情報を知りたい。今日来られている方が 100 人ほどおられますが、まだ市民の何万もわからない人がいる。これらの方にこの会議でどうい質問が出てどうい回答があったかというのは、先ほどの A5 紙を回収する以外の方法として、この会場でのライブ配信、あるいは録画配信これをしていただきたい。そうすると、今回この結果が市民にいち早く渡って、さらに次の行政センターでの説明会に有効な反映がされると思っている。この提案が時間がないとか、金がかかるということであればボランティアを募ってやれば経費が 0 で済む。希望者が 0 ということはありません。私も手を上げる。

→ 今後の参考にさせていただく。

No.12

・ 公共施設のあり方の見直しのところで、国土交通省の方で 7 年ほど前にインフラメンテナンス国民会議というものができており、そこでは各行政やいろんなところで、メンテナンスを効率化できるとか、どうしたらいいかを学者さん交えて行な国民会議というのができている。私も個人的には入っており、毎月のようにメールが来ているんな話題が入っている。メンバーがリストで出てくるが飯能市が入っていない。狭山市とか行田市とか入っているところがあるが、是非そういうところへ 5 万円くらいで入会できるので、いろんなデータが出てくるかと思うので、参考にさせていただければよろしいのかなと思う。飯能市も会計検査院の検査というのは定期的に受けられると思いますけども、会計検査院の中に、ご指摘事項のリストというか、こんなことやってたんだとか、こんな考え方で費用を安くしているんだとか、お時間があればそういったところも見ただければ多少足しにはなるのかなと思う。

→ こども参考にさせていただければと思う。

No.13

・ 議員さんとか市長さんというのは現状の把握をまずされて、長期的な展望を持ってそういう立場になるんじゃないかと思う。であるならば今回の財政調整基金ですか、そのような事実は当然知ってるはずである。それを今になり一挙に財政危機だというのははっきり言って納得できない。であるならば、同じように長期的に少なくともマイナスにしない程度に徐々に上げていくという形で補填していくという形はできないんですか。そうであれば、今回見直しが中心になっている。ずっと聞いていると歳入のない話ばかりということで、自治体の方が歳入に関してもうちょっと頑張りますとありましたけど、今までのそういった頭打ちの財産の中で、こうやっていかなきゃやれないんだよみたいな言い方しかされなかったんで、それは全然発展性がないんじゃないかと思う。確かに飯能市は山の中の市ですから、山の動物たちを食べていけばいいってわけじゃないんで

すよ、私たち。やはり心の中の誇りや喜びやそういうことをもっているじゃないですか。それができるうちであれば飯能市を誇りに思える。ですから今回みたいなやり方ははっきり言ってショックである。

→ これまでにも財政調整基金を積み増し積み増しをしてきたっていうお話は説明としてさせていただいていると思うがその中で、これも説明しているが、近年、ここ数年では、財政調整基金に積もうとするお金自体が、社会保障費など物価高騰などの経費の方に、使わざるを得ないということで積み増しができてないという状況になってきている。2040年問題と、将来的なそういった大きな課題もあり、この時点で何とかそういった状況に、そういう将来的な時代が来る前に、きちんと積めるものは積む、手当するものは手当するというふうなことをしていかなければ、今後の持続可能な行政運営ができないということを念頭に、我々市の執行部といたしましては、何とか一つの分岐点といましようか、違う方向にしていきたいというふうに考えておりますので、そういったところで取組をさせていただいている。未来に向けて、市民の皆さんが、この飯能に住んでよかったなというふうに、愛着や誇りが持てるような、そんなまちにするためにも、ここで一旦立ち止まって、皆さんの意見に見合った行政運営をしていく、そういったことがその先にはまた未来に向けて明るいものに繋がられるというふうに我々は考えている。

No.14

・ 2月に休止や廃止、縮小になった事業をですね、公表されるということでしたが、併せて休止や廃止、縮小になった理由、判断根拠を併せて公表してもらいたい。資料にあるように、判断基準として市民の安心安全、生命財産を守るとありますがこんなのあたりまえの話で、それだと飯能市の魅力とか、あるべき姿がわからない。こっちは大事だと思うが、そういった観点も含めた判断基準を資料とともに公表してもらいたいと思う。

→ 公表に際しましては、お質しのご意見を踏まえて、反映したものとなるように工夫をしたいと思う。事務事業の見直しでは、全庁的な事務事業見直しの視点を作成し、春先に全庁を挙げて、本当にこの事業が現在どのような費用対効果を上げているかといったことをこういった視点で、全庁で見直しを行っているので、この事業はどういった視点でこの結論に至ったかなど、そのようなキーワードを加味するように工夫をする。

No.15

・ 飯能市は高齢化率が33%で近隣の市ではトップであり、その中で社会保障費というのは確かにかかるだろうなというふうに思っている。だからここはあまり測定してもらいたくないというふうに思っている次第です。市議会の議員数、定数が例えば隣の入間市と比較して大体同じくらい20名くらいだと思っている次第ですが、人口で比較すると入間市が飯能市の倍くらい多い。それぞれ単純計算しましたように、議員の数の方は多いんじゃないかと思っている。そこで決めるわけではないというふうに思うが、議員の方、身を切る覚悟というか努力は、市議会の中であるのでしょうか。飯能市は入間市に比べて半分くらいの人口で、議員数は殆ど変わらない。このことに対して、皆さん一生懸命みんな頑張ろうとしてるのに、議員さんたちはどういうふうに考えるのか。すぐ来年実行されるとは思ってませんが、調査をするとかありませんか。

→ そういう動きは何年前にあった。前々回あたりに。これは議会の方で決めていくわけですけども、執

行部の方は口を出せない状況である。入間市と同じ人員だというが、その地域とか地理とか、人口ですとかいろいろな要素がある。適宜適時、議会の方で考えていただいて、執行部としては、減らせということは言えませんので、ご理解をいただきたいと思う。

No.15

・ 市立博物館について、継続から縮小というふうになっていたが、私は市民学芸員の受講生だが、1月15日から小学校3年生の対応で、昔の暮らしということで、校外学習ということで、2月の第1週まで、行われているんですけど、3年生の生き生きした学習態度等を見て、市立博物館の学芸員は4人いる、館長始めとして、県の平和資料館は、民間委託になって、学芸員さんが1人しかいない。ですから全然もう飯能市の方が上をいってる。博物館に来てもらえばわかるが非常に展示内容が素晴らしい。しかも、入館料は0。何が言いたいかって言うと、それだけ市民のために活動している博物館があるってこと。それは県にも誇れるものであるのにそれを継続じゃなくて、縮小にするとは何事だということを言いたい。ぜひ継続でお願いします。

教育長挨拶後の意見、回答

- ・ 最後に確認なんですけど、第5弾の見直しはありますか。
→ 第5弾ということですけども、この辺につきましてはですね、予算にまとめたというふう考えてますのでよろしく願いいたします。
- ・ 見直ししないということですか。現行のままで押し切るつもりですか。今説明された内容で改正なしでいくということですか。
→ 本日の説明会でいただいた意見をですね、検討させていただいたもので、第5弾というようなものになります。
- ・ 対話で始めるんじゃないですか。先ほど対話で始めるとおっしゃってましたよね。
→ こういった場も対話です。
- ・ 全部の説明会を聞いたうえで第5弾にいくんじゃないですかと言いたい。2月の28日までは作らないんですね。今言ったよね。全部聞いてからって市長は言いましたよね。今の意見を聞いて第5弾でもう一回提案するんですかと聞いています。
→ ちょっと整理をさせていただきます。昨日今日いただきましたご意見、こういったものをきちんとこちらの方でも受けとめさせていただきます。その中にはできるもの、できないものが当然ございます。で、第4弾の発表した後に、今後第5弾を2月にというふうな話をしましたが、その内容につきましては、いただいたご意見等を踏まえて整理をさせていただいて、できるものはできる、できないものはできないというふうなことに

なります。そこを、2月にですね、議会の皆様、議員の皆さんに説明をさせていただいたりとか、それと市民の皆様にも公表させていただく。

・ これから公民館だけ、市民センターとか、行政センターでやりますね。今日来れなかった方の意見は出るわけですね。それも当然取り入れるんですね。

→ その辺につきましてはですね、今後、新年度に入っているいろいろなことで参考にさせていただいて、またその後の内容を精査した上で取り組ませていただきます。大変申し訳ないのですがやっぱり時間というか予算の時期とかいろいろなことがありますので、その辺につきましてはご理解いただければと思います。

・ 市の計画より我々の意見を聞くのが先なんじゃないですか。今日これなかった人はこれから公民館に行くと思いますがその人たちの意見は反映されないんですか。

→ 予算計上という形では申し訳ないですがちょっと時間の関係もございまして、なかなか当初予算に盛り込むということは、難しいところでございます。ただ、その後ですね、内容に応じてですね、予算の状況がどういうふうに計上できるとか。また、今後そういうふうな評価をしてですね、例えばゼロ予算でできるようなものがあるんじゃないかと様々な角度から検討させていただいた上で内容を精査させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

・ 結局は予算に乗らないということですね。地区行政センターでの意見を聞かないと。

→ その辺につきましては当初予算には、おそらくもう時間の関係もありますので、そこは厳しいと思えます。

・ 厳しいってそこはやるんですか。やらないんですか。

→ だからそこは厳しいです。

・ やらないんですね。

→ 当初予算には計上はできないと思います。ただしこの後、いろいろなことで、必要性とか総合的にそれを考えさせていただきますが、内容を精査整理した上で、今後につなげていきたいというふうには考えております。

・ 考えてるんだったらそれはどうやって確認すればいいんですか我々は。

→ いろいろと議会を通じてですね、こちらの方でも説明をさせていただいたり、その状況が、またホームページ等で公開されたりとか、そんな形になると思っております。

・ 地区行政センターの方に行こうという人たちがいるわけですよ。昨日今日が来れないから、行政センターに行くってなってるわけじゃないですか。行政センターに行った方の意見は聞かないということですか。確認します。そうですね。

→ そういうことは言ってません。参考にさせていただいて。

- ・ 参考じゃない。意見は聞かないということですね。当初予算に入れないということは意見を聞かないということですね。確認しましょうみんな。
- ・ 休廃止されるものっていうのは、もう確実に決定ということですよ。今の段階で休廃止になっているものは決定ということですよ。現段階で、それだけ確認させてください。
- ・ 地区行政センターじゃなくて、昨日今日出た意見についてはきちっと聞いて、予算にちゃんとねもう一度反映させるって当然してるでしょ。それを、少なくともこういう皆さんの意見聞いたらこんなでこれはそうしましたと説明する機会を議会にも議員さんにもするけど、今日せつかくこうやって時間をお互いに昨日と来たわけだから、そういう場を設けたらどうですか。そうすれば、私たちはお互いに来てきて、これは実ったとかも乗らなかったとか、少なくともせつかく皆さん足を運んで皆さん方も私達の時間使ったんだから、それはこうになりましたねっていうのを機会設けてください。そうすれば、無駄足ではなかったなあといいんじゃないですか。それは最初に約束できるんじゃないですか。
- ・ わかりきってることじゃないですか。もっと早く日程を組まないでだめですよ。
- ・ そうだよ。毎日やれ。
- ・ 少なくとも 2 月 9 日の加治地区行政センターの説明会では数字を提出してください。それで説明してください。今回のどのようところが変わったか明確にしてください、お願いします。
- ・ 昨日と今日出された意見とそれに応えたことを次の公民館の人たちにわかるようにしていただきたいと思えます。同じ質問が重なっちゃうと勿体ないと思うんで。
→ その辺は検討させてもらいます。

- ・ 検討じゃない。是非やってください。検討っていう言葉で逃げるんですか。

→ 今日出た意見を整理させていただいて、検討させていただく。

- ・ 検討じゃない。必ず出してください。
- ・ 検討して答えを出さずっていつてるんだから。
- ・ 信用できない、信用できない。
- ・ 検討してこういう結果でこれは良かったとか、これは採用するっていうのを出す機会を設けてください。出来たらそれを加治地区行政センターでこれは第 5 弾で意見を聞きますっていうえば、みんなお互いが一歩前進でしょ。そちらも我々も、お互いに時間を大事に最低一歩前進だから。そういう場を設けてくださいってことだから、それは難しいことじゃないでしょ。第 5 弾の検討をして、内容はいろいろあるけど、いや、こういう検討でこれは改めてましたよとかそれはやりますよっていうのをすれば一歩前進じゃないですか。お互いに。
- ・ すみません。あわせて 1 月 22 日までパブリックコメントが今書けるようになってると思いますけど、こちらの検討を併せてみんなに公表していただきたいです。お願いいたします。

→ いずれにしても、昨日、今日といただいたご意見につきましては、検討して、次回の、次回ないしその次になるか公民館の方で、行政センターで行う時にですね、お答えしたいと思います。

- ・ 公民館の前に出してくださいよ。そうじゃないと、今日いた人はわかんないじゃないですか。
- ・ それは少なくとも議会で議員さんに第 5 弾の見直し案を出した時には少なくとも我々もわかるようにしてくださいよ。だって美杉台は 2 月 22 日ですよ。その時にはおしまいでしたっていうわけだから、少なくとも昨日と今日をね、みんな時間を割いてお互いに来たわけだし、皆さん方も時間つくったわけだから、それでこういう点は少し皆さん方の意見を取り入れたとか取り入れないとか含めて、第 5 弾の中身を知らせてくださいよ。そんな難しいことじゃないでしょ。それはやり方はそちらでいろいろあるでしょうけど、ぜひそれはご検討ください。それだけはお約束してください。

→ お答えできるように努力しますのでよろしく願いいたします。

- ・ お答えはするんですよ、努力っていうのは努力してもだめかもしれない。お答えはしてくれるんですよ。

→ それは約束します。

- ・ 今日の資料インターネットにあげてくださいね。ホームページに。なんで前に出さないんだこれ。

→ それではですね、時間も 1 時間ほど経過してお昼を過ぎておりますので、お帰り際は忘れ物等ないようにしていただきたいと思います。本日は長時間にわたりましてありがとうございました。